

校長室より

第89号

「天空高き」



平成28年11月25日

今を生きる—先行き不透明で予測の難しい社会に備えて—

これからの時代は先行き不透明で、予測がつかない社会が到来する。と言われています。

それを象徴するような出来事が起こりました。アメリカ大統領選挙でトランプ氏が勝利しました。予備選挙でトランプ氏が登場した時には、国内外を含めほとんどの人たちは敗退するだろうと、予測していました。それが予備選に勝利し、共和党の指名候補に選ばれ、まさか本選でも指名されました。その“まさか”が、現実が起こりました。



ところで、今日本は、少子高齢化・高度情報化・グローバル化社会に直面しています。社会の急速な変化とスピードに対応していかなばなりません。世の中が目まぐるしく変化する上に、予測できないことが突然起こったりもしています。



出典 Livedoor

私がサッカーを始めたときに常に言われた言葉があります。“Think Before, Look Around”直訳すれば、“周りを見て、(ボールを受ける)前に考えろ”となります。

スポーツの世界に共通することだと思いますが、プレーする上で、「周りを見て、一瞬で判断を下して瞬時に動く」ことが常に求められます。

同じように今、私たちがこの社会で生きていくためには、常に周囲にアンテナを張り、いろいろな情報をキャッチして、瞬時に判断し行動することが求められています。

いつでも、どこでも、どんな時にでも、自らの価値判断で考えて、主体的に行動することが求められています。そのためには、いつも皆さんに言っていることですが、今を、前向きに、素直に、全力で生きることです。そして、たとえ失敗しても、その失敗から何を学び取ることができるかが大事です。学び続けることで社会に適應できる力が培われていきます。

ことばの力を高めるー 現代人の語彙に関する調査よりー

朝日新聞社とともに「語彙（ごい）・読解力検定」を主催しているベネッセコーポレーションは、「第1回 現代人の語彙に関する調査（語彙調査）」をまとめました。

調査は7月、高校生以上の3130人にインターネットで行ったそうです。

辞書語彙、新聞語彙に最近の「新語」を加えた計540語について意味を知っているかどうか質問しました。

回答者が対象の言葉のうち「知っている」と答えた割合（語彙力）を集計しました。

語彙力が高い人に特徴的だったのは「読書」です。1カ月の読書量（電子書籍を含む）について「10冊以上」と答えた人の語彙力は平均81.1%で、「全く読まない」と答えた人より23.1ポイント高かったそうです。

また、新聞やネットでニュースをよく読む人ほど、語彙力が高く、紙の新聞の場合、ほぼ毎日読む人と読まない人では語彙力に15.6ポイントの開きがあり、ネットの場合も20.2ポイントの差がありました。

今回の語彙調査では、世代による語彙の違いも明らかになりました。

高校生とその親世代（40～60代）で、対象となる言葉を知っている人の割合を比較すると、高校生の方が親世代より知っている割合が高い言葉には、「ディスる」「イミフ」「りょ」などの略語が並びました。

一方、親世代の方が知っている割合が高い言葉は、「阿漕（あこぎ）」「イデオロギー」「忌憚（きたん）」などで、難しい熟語が多かったそうです。

調査に協力したベネッセ教育総合研究所の木村治生副所長は「SNSなどコミュニケーション手段が発達したことで、世代間の語彙の差は広がった」とみえています。

私事になりますが、高校生の方が「知っている」言葉、すべて知りませんでした。

世代間のギャップのおおきい言葉

〈高校生のほうが「知っている」と答えた割合が高い言葉〉

順位	差	語
1	44.1%	【ディスる】(けなす)
2	44.0%	【イミフ】(意味不明)
3	41.3%	【りょ】(了解)
4	35.8%	【きよどる】(挙動不審な動きをとる)
5	34.9%	【ぼちる】(ネット通販で購入ボタンを押す)
6	32.9%	【リムる】(ツイッターでフォローをやめる)
7	32.7%	【とりま】(とりあえず、まあ)
8	30.1%	【セルカ】(カメラで自分を撮ること)
9	29.6%	【じわる】(じわじわくる)
10	29.1%	【(予想の)斜め上】(予想から大きく外れること)

〈社会人のほうが「知っている」と答えた割合が高い言葉〉

順位	差	語
1	41.9%	【阿漕(あこぎ)】
2	39.9%	【イデオロギー】
3	39.5%	【忌憚(きたん)】
4	39.2%	【見紛(みまが)う】
5	38.6%	【活路】
6	38.4%	【経団連】
7	37.6%	【骨子】
8	37.3%	【こきおろす】
9	37.2%	【風采】
10	36.7%	【量的緩和】

知識でなく知恵を求めよ。知識は過去の産物だが、知恵は未来をもたらす。

ラムビー族(アメリカインディアン)の格言

スポーツの秋—言葉こそ自分たちを表現する武器—

シンクロナイズスイミング日本代表ヘッドコーチ井村雅代さんが、リオオリンピックから凱旋（がいせん）直後、NHK の取材に答えた言葉です。

「私と一緒に練習して、それで、ああ厳しい練習が終わってよかった、というような意識のレベルでは絶対にメダルは取れない。大事なはその練習の後、では自分は何をすることを考え、さらに自分で練習するような人でなくては、メダルは取れない」



出典 佐賀新聞

今年ノーベル医学生理学賞を受賞された大隅良典栄誉教授もやはり、自らが自らに課題を見つけ地道に研究した成果が、最高の栄誉につながったと思います。

皆さんも授業で学んだこと、学校行事等で体験したこと、そして部活動で身に付けたことを土台にして、さらに自分なりにアレンジし努力を重ねることが次への大きなステップになります。

これまでの人生において皆さんが経験してきたことに無駄なことは何一つありません。体の、頭の、そして心の、大事な栄養になっています。今の皆さんにとって大事なことは、失敗を恐れずチャレンジすることです。

継続は力ない！—2 学期挨拶・無遅刻無欠席運動週間—

14 日から生徒会主催による挨拶・無遅刻無欠席運動週間が展開されました。今回も朝早くから一段と皆さんから元気をもらいました。

今年のチャレンジ目標の一つに、「先に挨拶する」と「5 分前行動」を掲げています。

先に挨拶できるということは、気配りのできる人だと思います。そして、先に挨拶することで第一印象が良くなります。そして、相手の警戒心もとけて会話しやすい雰囲気になります。特にこれから受験を控えている3年生の皆さんは外に出る機会が多くなります。初対面の人と接する機会が多くなり緊張を強いられませんが、先に挨拶することで、随分と気が楽になることでしょう。

今回残念だったのは、無遅刻無欠席を達成したクラスが、中1-1、中3-1、S2-1、S3-1、の4クラスでした。学校は集団学習の場です。仲間と互いに切磋琢磨しながら社会に出て活躍できる力を育むところです。体調を維持、管理できることが大人への第一歩です。これからますます寒くなります。食事、休息、睡眠、そして適度な運動をお互いに心がけてもらいたいと思います。



学び続けるー授業参観を通してー

18日と19日の2日間は授業参観日でした。皆さんは小学校時代から、いやそれより前の保育園や幼稚園に通っていた時から、保護者や家族、地域の方々などから授業を参観してもらっていたと思います。

授業参観の目的は、先生方がどのような授業を展開しているのか。生徒たちの授業理解度はどうなのか。授業を通して、先生方と生徒たちの信頼関係を保護者の方々がみられているのだと思います。

保護者の方々が一番に関心をもっておられるのは、自分の子どもが「学校でうまくやっているか」だと思います。

皆さんは年齢が上がるにつれて、保護者の方々に参観されるという事が苦痛になっている人もいるかもしれません。しかし、保護者の方々が皆さんを見つめられる様子を拝見させていただくと、どの親御さんも皆さんの成長を心から願っておられるのだと強く感じます。本当にありがたいことだと思います。そして、一教員としてあらためて授業の大切さを認識させられました。



災難は忘れる前にやって来る！ーまず、自分の命を守るー

22日の早朝、福島県沖を震源とする地震が発生しました。福島県をはじめ、東北地方の沿岸にかけ津波警報・注意報がでており、2011年に発生した東日本大震災の時の津波の映像が頭を過（よぎ）りました。幸いなことに大きな被害はありませんでした。

先月の21日には鳥取県中部で最大震度6弱を観測した地震がありました。

いつも言っていることですが、日本列島のどこで、いつ、どんなことが起こるかはだれも予測することができません。

もし災害が皆さんの周りで発生したら、まず、自分の命を守ることを最優先してください。そして、危機管理の原則は「最悪を想って、慎重にかつ素早く、誠意をもって、組織で対応する」ことです。

「さ」＝最悪を想って 「し」＝慎重に 「す」＝素早く 「せ」＝誠意をもって
「そ」＝組織で対応する

24節気 小雪（しょうせつ） 11月22日頃

木々の葉が落ち、山には初雪が舞い始める頃です。「小雪」とは、冬とはいえまだ雪はさほど多くないという意味で、冬の入口にあたります。